

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 23 号 (11 月 20 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人1回戦 米中にPK合戦で惜敗

11月15日(土)県新人戦一回戦が米沢市営サッカーフィールドにて開催されました。当日は小雨降る中、気温下がりがまくり。第一試合の副審を帯同審判として務める私のテンションは上がりません。「いや〜、こんななか審判したくないし、試合も(できれば)したくない」などと弱気になるのは、いかなるコンディションでも(当方からは)練習試合を断らないことを信条とする?山東らしくない。とまあ、それくらい寒かった日。試合前、施設内の温かい大会本部でため息をついていると、「でも、米工よりはいいでしょ」との慰めの声を頂く。そうなんです。米沢工業高校会場は、こちらの人工芝と違って、おそらく巨大な水溜りとともに試合開始です。暖かければそれも気合次第ですが、雪がいつ降ってもおかしくない低い気温にての泥だらけの試合は、拷問に近い。米工会場でがんばっているであろう米工・城北・羽黒・山工の選手諸君に敬意を表しつつ、「そうだ、恵まれてるんだ。ぶつぶつ環境に文句を言ってはいけない。」と気を取り直して、第一試合の審判を務める。

さて、山東の試合は第三試合。相手は米沢中央。去年の選手権出場チーム。今年も選手権山形県予選でも、準々決勝にてインターハイ出場の日大山形を破り東海大山形と準決勝にてぶつかり、1対1の引き分けからPK合戦にて敗れはしたものの、優勝チームをもっとも苦しめたチームと言っていい。特に1年生に豊富なタレントを擁しており、将来性も十分¹。実は試合前、ある筋から、「米中は修学旅行と県新人の日程がかぶっており、1年生で試合に臨むみたいだよ」と知らされて、いや〜な緊張感を感じておりました。相手がフルメンバーであれば、当たって砕ける。山東が失うものはありません。しかし、1年生に負けたとあっては、聞こえが悪い(し、選手たちもショックが大きかろう)。ということで、この試合負けられないな、と腹を括っておりました。しかし、会場入りすると、齋藤 GK コーチが、「なんか(風格が)1年生じゃないみたいだね」とつぶやく。「強豪チームは1年生も堂々としてるってことだよ」などと会話しつつも、何かおかしい。米中のコーチに直接聞くと、翌日から2年生が修学旅行に出発するが、一回戦はフルメンバーで臨むとのこと²。こう聞くと、安心というか残念というか、複雑な気分。実際、残念な気持ちも若干起こったのが正直なところで、どこかで監督の心に「1年生は嫌だが勝てる可能性は高まる」という嫌らしい思いがあったということ。清野 OB 会長、後藤報道局長、そして多数の保護者がいつも通りいらっしやる。そして！ **前顧問の遠藤先生**(現高畠高校剣道部顧問³)がアンブロのウ

¹ 選手権二回戦米中対米工の副審をしたので、米中の良さはこの目で確かめておりました。

² とはいえ、先発のうち2年生は3名と、米中は1年生主体のチームでした。将来性抜群ですね。

³ 元々剣道専門家ながら、スポーツ全般の造詣が深く、サッカーは特に詳しい(専門保健体育)。ご自身もプレーすることを好まれ、よく生徒と一緒に試合に出ていました。あまりにもサッカー部の業務の負

オーマーを来て、応援に駆け付けて下さる。これは心強い。

選手権では、右足を負傷⁴している2年生 GK サブローの強行出場によって、GK がボールを持った時、及びゴールキックなど低い位置のセットプレーでは、常に (GK の) スローまたはショートパスを強いられ、山東にとって不慣れな低い位置でのビルドアップを敢行。あえなく新東の守備網に引っ掛かり、粉碎された。その経験を生かし、県新人では、**うまいふりせず** ゴールキックなどは CB が取りあえず大きく蹴る、陣取り合戦をする、低い位置での攻防の時間を減らす、GK も左足でいいからパントキックで蹴る⁵、DF はまずはダイレクトな攻撃を心がける、というように**割り切ったゲームプラン**にて試合に臨む。それではこれまでのような雑な戦いと同じじゃないか、と思われるかもしれませんが、GK を経由してサイドチェンジできない状況で低い位置からのビルドアップは非現実的。

とまあ、このようなゲームプランで臨んだはずが、1年生右 SB ワタコーさんは寄せられてあわてて、最初っから GK にバックパス。おいおい、サブローを何だと思ってるんだね、ワタコーさん。と思ったら、サブローからのショートパスを受けた2年左 SB サッチモさんが、またすぐあわてて、インサイド (中) にいる CB にパスのつもりが相手 FW に「決めて下さい」というメッセージのこもったグラウンダーのセンターリング。おいおいサッチモさん、あなたは〇ーツキか。このシーンは相手選手のミスにより事無きを得ました⁶が、試合の入りから拙すぎ。「一体この試合、どうなってしまおうんだ」と不安にさせる。**よくよく考えれば、新東戦はこの試合の入りの拙さにより、気づいてみれば試合開始 8 分で 3 失点していた**のでした。今回は相手が外してくれたから良かったものの、選手権から全く成長してない姿を露呈させました。このように、試合の入りはボロボロ。ただ、ここで失点しなかったことで、少しずつ落ち着きが出てきたか。徐々に山東の攻撃の時間が増えてくる。そして**山東の攻撃をけん引するのは、やはりムンタリ**。彼以外の山東の選手も、彼のポジショニングを常に確認しているのでしょう。前線へのパスはほとんど彼目当て。すると、前半半ば、左サイドで待ち構えたムンタリの足下に対して、誰かが！グラウンダーのパスを通す。それをムンタリ、**右足アウトでゴールに直線的に転がす絶妙トラップ**。簡単なお見えて、このゴールへの直線的なコース取り、なかなかできない。このトラップ一発で、米中左 SB は裏を取られ、ムンタリ独走開始。中から CB が対応してきたが、一瞬早くムンタリが縦に交わしたところで交錯し、**ムンタリ PK ゲット**。相手選手もファールするつもりはなかったと思われる。要はムンタリの速さが想定以上だったってこと⁷。これまで試合中に得た PK は主将タイチが蹴っておりましたが、タイチは足の指と指の間の故障すなわち水虫により、あっ間違いました、それは苗場での欠場理由でした、膝の故障によりベンチ入りすらしていないため、ムンタリ自分で蹴りたいと言ったのか、ともかくムンタリがキッカーとなり、難なくネットを揺らし先制！ **流れが山東にあると言えない状況で点数だけ入っていくこの**

担が大きかったために、体育の教員の正式採用が遅れたのでは、との忸怩たる思いがあります。

⁴ 10月頭の進学校大会で右足負傷。ずっと捻挫だと思っていましたし、選手権もテーピングして強行出場しましたが、捻挫ではなく骨折でした。そりゃ、テーピングして足首固めても、痛い訳です。

⁵ パントキックとは手に持っているボールを地面に落とさず蹴ること。サブローは右足の足裏のところの骨を折っており、左足で蹴る分には痛くないとのこと。

⁶ ムンタリ曰く、「米中のFWはさすがに自分のところにパスがくるとは思わなかったので、焦ったんだと思います。」いろいろな可能性を考えて準備しているのが好選手とはいえ、あのパスも予測のうちにできるとすれば、相当サッチモさんのことを知っている選手です。

⁷ このプレー以降、米中CBはムンタリの速さを踏まえた対処をしていたと思います。すぐ対応できる場所に能力の高さを感じました。

展開が、まさに今年の山東の真骨頂⁸。「米中も山東の策に嵌ったか」と内心ベンチでほくそ笑みましたが、その直後、いらないファールで深い位置の FK 与え、それで蹴られたボールをゴチャゴチャとクリアできずにいると、押し込まれ、失点。**強豪チームであれば絶対にやらない守備の不手際で失点**し、同点となる。ベンチ隣で試合を観ていた齋藤 GK コーチは盛んに GK の対応を問題視していましたが、どうだったのでしょうか。まあ、骨折中のサブローにはあまり多くを要求できない。FP がこぼれ球の予測をもっと良くできなかったか。そして、そのまま 1 対 1 でハーフタイム。

ムンタリに相手の注意も行く分、もう少しもう一人の FW ユウト（1 年生）を使った攻撃をして行こうと指示して、後半を迎える。**ポゼッションの米中、カウンターの子山東という構図は前半と変わらないものの、後半は山東のディフェンスの対応が徐々に積極的になり、良いボール奪取から良い攻撃につなげるシーンが多く見られる。**特に、米中の攻撃陣が足下でボールを要求することが多く、裏へのランニングが少ないため、山東の DF が「相手の前に入る」という意識に集中できている⁹。前半の前半バタついたワタコーも、大きな声をかけながらヘディングでクリアしたり、トラップ際に相手に猛然とアプローチしたり、積極性が見られる（前にアプローチしつつ裏を取られないと尚良い）。サッチモさんも相変わらずコネコネボールを持つし、裏を取られることもあるが、中盤でのボール奪取では持ち味を発揮している（サッチモさんが相手のドリブルでぶち抜かれた時は相棒タツルが猛然とカットするシーン多し）。ボランチのサンペーは深い位置まで戻ることもあるくらい守備意識が高くチームに貢献（早く得点が見たい）。カツミも中盤で体を張っている（いつもやってほしい）。それに比して、タクオとカズマの両 SH の元気がないか。後半タクオに換え、山東に隔年で現れるというユータローを投入。ユータローには力強さはないが、確かなサッカーセンスを感じる（テクニックが不十分）。そして、山形二中伝統？の魂のスライディングという武器を持つ。後半も危ないシーンを作られるが、本当に危なかったのは、サブローが足に当てて防いだシーンだけで、あとは、しっかり中に人数がいて対応できているので、最後まで崩されたわけではない。山東サイドで一番惜しかったのは、後半の前半にムンタリへの長いボールをムンタリがつぶれ役になり、こぼれたところをチャッカリカズマが登場し、GK と 1 対 1 になったプレー。GK のハンドを要求する声が応援席とベンチの両方からありましたが、どうだったのでしょうか。ともかく、そのままの得点で 20 分の延長戦へ。

延長も、後半と同じ形の戦い。山東はもう少しムンタリ経由でない攻撃をしたいところだが、**チャンスのほとんどはムンタリにボールが渡ってから、というのが現状。**一番惜しかったのもムンタリ。延長前半、ドリブルで CB を引き連れ、左足でシュートを放つも、惜しくもファーポストギリギリに外れる。最後の数分、故障明けの天性の男シャモジを FW で投入し、一発に期待するも、ボールにほとんど触れず。結局、両チームの攻撃が決定的ではなく、1 対 1 のまま PK 合戦へ。山東 1 人目が外し、米中がすべて決め、PK 合戦 4 対 5 で敗れる。

惜しい敗戦でした。多くの方から、「惜しかったね」「山東の流れだと思ったのに」「面白いチームだね」などと慰めの言葉をもらいました。確かに 1 年生を中心に伸び代を感じさせる選手が多いとは思いますが（ということは、逆を言えば、これまであまりにも伸ばしてこなかったということ）。ただですね～、正直**ムンタリ依存症**です。ムンタリが出場できなく

⁸ といって誇っていいのやら。単に、ムンタリの個の力のおかげではないのか……。来年が心配です。

⁹ 米中 3 年生 FW の積極的な裏への飛び出しの多さとの違いを感じました。

なった途端、攻撃の糸口を失うことでしょう。その意味で、もう一人の FW ユウトには、もう少し見せ場を作ってもらいたかったが、**パサーがユウトの動きを見ていないのか、ユウトの動きが悪いのか**、どちらか（またはどちらも）の理由により、あまりボールに絡めなかったというのが正直な感想。ともかく、頼れる FW がいるのは武器ですが、それだけでは勝ちきれない現実が露わとなった敗戦だったのではないのでしょうか。これからの課題ですね。ただ、**崩れるような選手権新東戦の敗戦の後に、少し山東らしい戦いができた**ということで手応えもありました。**本当に寒い中、応援ありがとうございました。**

♪連絡その1♪

以前の部報でほのめかしておきましたが、サッカー部から応援団の団員が誕生しました。その名も、クロマティこと1年生フミキ。山東の応援団は、部活動として営まれており、フミキは兼部という形になります。現在の2年生団長は応援団専門ですが、3年生団長は卓球部との兼部でした（その上はマンドリン部との兼部）。サッカー部の練習の前に、応援団の練習でがんばっているフミキの姿を見ると、涙が出そうになります（まだ出てませんが）。その責任感の強さ、「逆境」を言い訳にしない芯の強さは、まさに天晴れ。どのような子育てをするとあんなに周囲のことを考えることのできる思いやりのある子供に育つのか、親御さんに聞いてみたいくらい（本心）。

「応援団員に立候補してくれるようお願いしたが、よく立ってくれたな」と褒めて声をかけると、「いや、（お願いされてから立候補しただけで）自分から立候補した訳ではないので、大したことないです」と否定する謙虚さ、どこまで自分の株の値段を上げたいんだ！（ちなみに、その受け答えを聞いていたタクオやユウトら山形F中の部員は笑っていました）

ともかく、フミキ、応援団を頼んだぞ。もちろん、部員としても期待しています！！

♪連絡その2♪

このたびの高校サッカー選手権山形県大会で、見事、東海大山形高校サッカー部が優勝し、全国大会への切符を手に入れました。おめでとうございます。6度目の決勝戦だったそうで、本当にこれまでのご努力が報われた結果ですね。

この部報を熟読されている方はご存知と思いますが、山東サッカー部は東海大山形サッカー部のスタッフ（五十嵐先生、皆川先生）には大変お世話になっているのです。合宿ではなくフェスティバルを求めているときに夏の苗場の良さを教えてくれたのは東海のスタッフでしたし、蔵王の合宿が宿の火事によりダメになり行き場を失っているときに月山の良さを教えて下さったのは（そして月山登山という企画を教えて下さったのは）東海のスタッフでした。正月の埼玉遠征も、最後に電話で先方につないで下さったのも東海のスタッフでした。言うなれば、山東の現在のスケジュールがあるのも、すべて東海のおかげということになります

今回の優勝は、部員への熱い指導、中学生への指導（東海サッカースクール）とそれを通じた勧誘活動、ソーシャルメディアを駆使した広報活動など、これまでのご努力の賜物だと思います。

さて、選手権、まずは一勝目指し、頑張ってきて下さい。応援しています！！！！